

私の思い出、初心者労働運動と政治活動

茨城県・友部工業労組OB・斉藤 隆

組合を結成し、全織加盟

昭和39年に友部工業（市川毛織の子会社）の仲間と組合を作ろうと話し合い、準備をした。組合経験者がおらず、大変苦勞をしたが、ある程度固まった時点で市川毛織労働組合に相談し、組合の作り方、組合規約等、結成までの準備を指導していただき、昭和40年6月に友部工業労働組合結成の運びとなった。

私は会計となった。苦勞したのは組合費の徴収で、会社側と協議したがチェックオフが出来ずに、組合員一人ひとりから現金で集金していた。数年後にチェックオフが出来るようになった。昭和42年に、全織同盟の1月の中央執行委員会の承認により加盟が決定し、羊毛部会に所属となった。

当時の全織会費は95円、羊毛部会費は19円、共済会費10円、計124円であった。当組合の組合費は基本給の1.1%プラス150円であった。今、考えると懐かしく思い出される数字である。

昭和43年に茨城同盟に加盟、同年、笠間地区同盟の結成に参画し加盟。当時、全織同盟茨城県支部が無く、単組としては茨城県の第1号組合であり、全織の東京都支部に所属し、常任委員会の副議長を要請された。初めて組合を作ったばかりで副議長は荷が重いと辞退した。当時の矢田東京都支部長から、茨城県の組織拡大担当として県内の道案内程度でよいと説得されたと、当時の組合長から聞かされた。

昭和43年の統一賃闘では、スケジュールを集団交渉組合に合わせたストライキ日程に合わないため、平和義務排除ができない組合は中央労働委員会に斡旋の申請をして対処した。当時、部会の中では当組合だけが平和義務排除が出来なかった。これが3~4年続いたが、当時、部会の鈴木書記長、安藤書記長には大変お世話になった。

全織同盟茨城県支部の発足

昭和45年に全織同盟茨城地区事務所が開設された。

昭和48年に茨城県支部が21組合、2500名で発足した。

昭和49年に友部工業と市川毛織が合併し、市川毛織労働組合友部支部となった。

昭和50年に茨城県支部と千葉県支部が合併し、関東支部となった。

昭和55年に茨城県と千葉県が独立し、茨城県支部が再発足し、現在に至っている。

私は、昭和40年に組合役員になってから、平成4年に引退するまで27年間、労働組合の役員をしてきたが、当時は基本給が低かったけれど、賃上げ闘争では10~20%前後の闘いであった。バブルがはじけてからの経済闘争は定期昇給プラス α 程度となり、一時金の成果が主力となってきた。労働運動も雇用を守ることと、政策・制度要求に変化して、ある意味では大変厳しい時代になってきたと思う。

政治・選挙活動

市川毛織労働組合（現イチカワユニオン）は、戸田組合長が千葉県議選に出馬、津田副組合長が柏市議選に出馬していた。友部支部からも応援に駆けつけ、組合活動と政治活動は切り離すことが出来ない車の両輪の活動であった。

私たちの生活は、政治活動を抜きにしては向上はありえない。従って、政治的要求を達成するため、組織として私たちの代表を政界に送り出すと同時に、民社党への支援、協力体制を強化することを合言葉に活動してきた。

参議院全国区の藤井恒男氏から、参議院比例区の川合孝典氏まで、また、衆議院茨城1区の塚田延充氏がゼンセン組織内候補として推薦決定された。

茨城県に「民社の光」を旗印に選挙戦が始まった。

笠間地区同盟は、組合員240名と県内では組織人員が一番少ない地区同盟であり、本陣（選対本部）からは、笠間地区の目標は15,000票と設定された。組合だけでは闘えないと、後援会作り着手、笠間市内に5後援会、友部町、岩間町、岩瀬町に各1後援会を設立した。地区同盟役員は後援会の役員とはならず一般市民の協力と、塚田さんの同級生、先輩等をお願いをして役員になっていただいた。

笠間の場合は、民社党ではなく「えんじゅう党」として訴えることが大切だと認識し、後援会をお願いし独自の運動を展開した。このため本陣とは行き違いも数々あったように思う。

1回目の選挙は、44,557票で6位、落選。その後、後援会役員から不平、不満もあり、役員交代等で、苦勞した。

2回目も同様で、55,260票で6位、落選。

3度目の正直で目標達成、76,452票を獲得して、3位当選を果たした。

この3回目の時と記憶しているが、水戸、笠間一帯の県道に「春日一幸来る」の捨て看板を数千枚立てた。当日、水戸駅前で街頭演説するとき、直前になって「商店街の有線放送がウルサイ！ 電気屋がおるだろう、これをすぐ切れ！」と言われた。慌てて4組に分かれて商店街を走り「春日一幸委員長が塚田の応援演説に来ているので、有線放送を一時中断してください」とお願いをした。「春日一幸さんが来ているのか」と皆さん協力的だった。

3回目に当選はしたものの、まだまだ弱いと本陣から地域会を組織しては、と提案があり、昭和60年3月に友部町、岩間町に地域会を発足した。友部支部では、グラウンドでバーベキュー大会を開催し、支持者からの常陸牛の差し入れもあり盛り上がりを見せた。昭和60年6月に笠間市、岩瀬町地域会も発足し、臨戦態勢が整った。笠間地区同盟は、後援会役員会等で毎年選挙があるような雰囲気であった。

4回目は88,470票で4位当選。

民社党友部支部設立

民社党県連から民社党友部支部を設立するよう要請された。4回の塚田選挙をしてきて、後援会の幹事の方々に入党のお願いをし、友部町で市民の党员16名と、イチカワユニオンの党员を合わせて民社党友部支部を平成4年1月に結成した。その後、民主党茨城県連が結成され、民社党茨城県連は解散式を行った。（しかし、民社党友部支部は忘れられたのか？解散式を行わず今日に至っている。）

私は、この設立を最後の仕事として平成4年9月の大会で組合役員を引退した。その後も塚田さんが引退するまで引き続き応援してきた。中選挙区から小選挙区に変わったが、茨城は保守王国であり、あの失脚したバンソウコウ顔の赤城元農林水産大臣の地元にもオルグに行ったとき同盟系の支持者であるが「票はやるが、親父もこの部落の赤城後援会の役員支持者であり、変な目で見られるので、もう来ないでください」と言われた。赤城氏は旧選挙区の地元では、がっちり固め、笠間市、水戸市でも自民党の票を固め、塚田さんは敗戦、引退に追い込まれた。

私事になるが、2001年9月12日、UIゼンセン同盟第57回札幌大会において名誉組合員の委嘱を受けた。その前日、部会の定期中央委員会終了後、宿舎に帰り休憩中にニューヨークにおける飛行機による9・11自爆テロの忌まわしい報道に接したことを、今も時々思い起こす。

定年後はUIゼンセンOB友の会（現シニア友の会）に入会し、2007年10月第5回総会においてUIゼンセンシニア友の会茨城県支部長に再任され、現在に至る。

| 塚田延充 選挙結果 | | 定数 4 | 中選挙区時 | |
|-----------|-------------|---------|-------|----|
| 回数 | 年 月 日 | 得 票 数 | 当落 | 順位 |
| 1 | 昭和 54.10.7 | 44,557 | 落 | 6 |
| 2 | 昭和 55.6.22 | 55,260 | 落 | 6 |
| 3 | 昭和 58.12.18 | 76,452 | 当 | 3 |
| 4 | 昭和 60.7.6 | 88,479 | 当 | 4 |
| 5 | 平成 2.2.18 | 80,887 | 落 | 5 |
| 6 | 平成 5.7.18 | 125,235 | 当 | 1 |

以 上